

2022 年度
(令和 4 年度)
事 業 報 告

社会福祉法人 悠久会

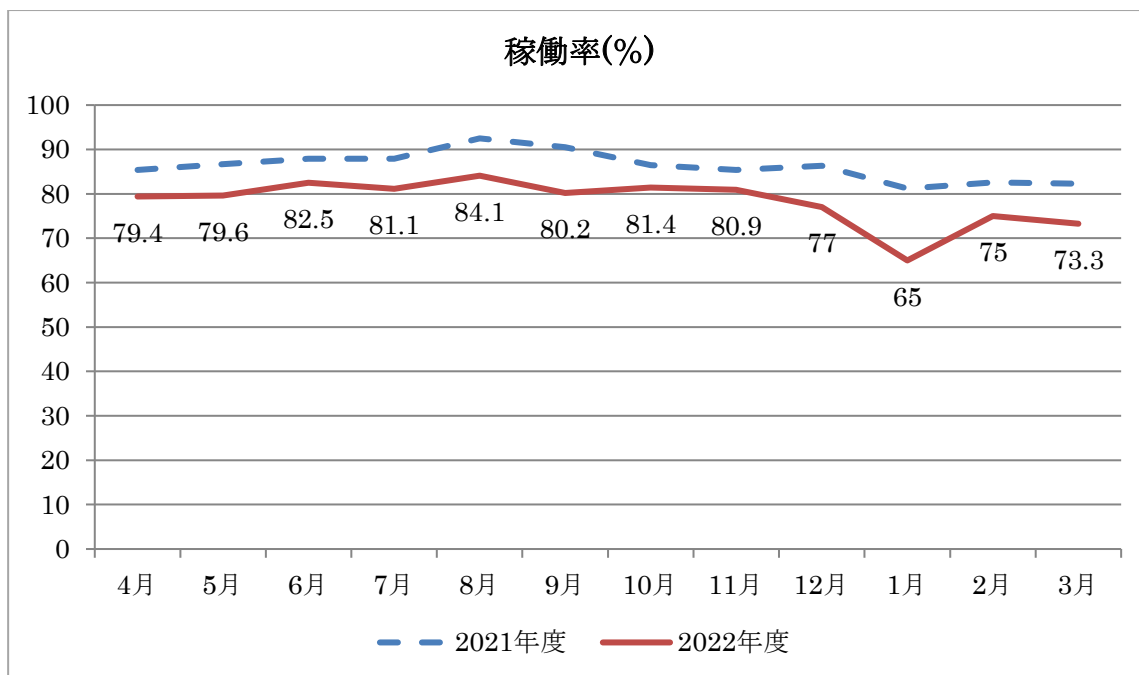
事業別概要

1. (従来型)特別養護老人ホーム八千代城
2. (従来型)特別養護老人ホーム八千代城 短期入所生活介護
3. ユニット型特別養護老人ホーム八千代城
4. 八千代城デイサービスセンター
5. グループホーム悠々やちよ
6. ケアハウス青空
7. 八千代市在宅介護支援センター八千代城
8. 八千代台地域包括支援センター

1. (従来型)特別養護老人ホーム八千代城 長期入所 定員 68 名

(1) 稼働状況

年月	2022 年(令和 4 年)									2023 年(令和 5 年)		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ利用者数	1620	1678	1683	1711	1773	1638	1716	1652	1625	1371	1429	1546
100 % 時	2040	2108	2040	2108	2108	2040	2108	2040	2108	2108	1904	2108



年間平均稼働率 78.32% 前年度比 -8.00% (前年度 86.32%)

- ・年間入所者数 21 名 ・年間退所者数 25 名(前年度入所 15 名 退所 17 名)
- ・平均要介護度 3.60

○特に 12 月中旬より新型コロナクラスターが発生。クラスター中及びクラスター後しばらくの期間は新規入所の動きがほぼ取れず年末から年度末にかけて稼働が低下した。

○年度を通じて新型コロナの影響により新規入所の手続に遅れが生じる場合があった。

○前年度と同様に他施設と入所に向けての動きが重なる事が複数回あり、入所者の取り合いのような状況がある。

○年間延べ入院者数 2,699 人 (稼働率約 10%相当)

(2) 報告事項・課題点等

○感染症対策

- ・ 12月中旬より新型コロナによるクラスターが発生。利用者45名が感染し、うち11名が入院。5名は長期間の入院が見込まれそのまま退所となる。
- ・ クラスター時は医療機関も満床の場合があり、本来であれば入院治療を要する利用者についても施設内療養となるケースがあった。
- ・ 新型コロナ感染により出勤できる職員が減少し、職員の負担が増大した時期もあった。
- ・ 面会については年度を通じてオンラインのみとした。対面による面会を希望する声が年度終わり頃から増えてきている。状況を見ながら早めに対面面会の再開を検討する必要がある。

○事故等

- ・ 医療機関受診を要する事故 6件あり
- ・ その他軽微な事故・ヒヤリハットは多数あり

○その他

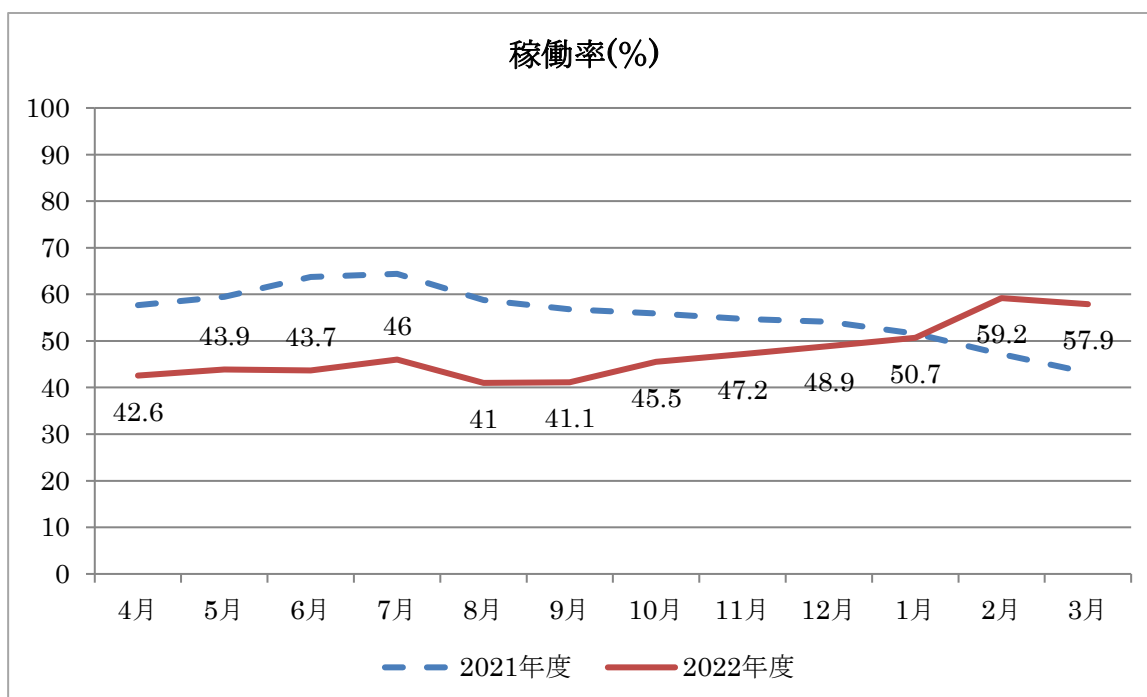
- ・ 職員数が不足傾向。日中帯は改善傾向にあるが、常勤職員、特に夜勤のできる職員の不足傾向は続いている。相談員等が補助に入ることもあり、引き続き補充の動きは必要な状況である。
- ・ 年度末に看護職員の退職が重なり配置基準が満たせなくなり、2月から減算となってしまった。3月からは本体報酬も70%となり大幅減収となった。
- ・ 職員研修についてはオンライン研修を実施。基準上必要な研修は満たすことができた。義務猶予期間となっている業務継続計画の訓練等をどのように取り組んでいくかが課題である。
- ・ コロナ禍においても花を育てる園芸などのレクリエーションに取り組むことができた。
- ・ 年度末には花見ドライブを実施するなど外出行事を再開することができた。

※併設型短期入所生活介護（ショートステイ）については職員不足により休止中。空床型のみ届出しているが、稼働実績はなし。

3. ユニット型特別養護老人ホーム八千代城 定員45名

(1) 稼働状況 ※職員数不足により45床中30床のみ稼働中

年月	2022年(令和4年)									2023年(令和5年)		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ利用者数	576	613	590	643	572	555	635	638	683	708	746	809
30床満床時	900	930	900	930	930	900	930	900	930	930	840	930
45床満床時	1350	1395	1350	1395	1395	1350	1395	1350	1395	1395	1260	1395



年間平均稼働率 47.34% 前年度比 -7.32% (前年度 54.66%)

(※45床中30床のみ稼働中 30床満床で稼働率 66.66%)

- ・年間入所者数 14名 ・年間退所者数 8名 (前年度 入所3名 退所10名)
- ・平均要介護度 3.40

○年度前半に施設内で新型コロナが発生したことやケアマネージャーの交代等もあり新規入所者獲得の動きが鈍く、年度終盤まで前年度より大きく稼働が下がってしまった。年度終盤に新規入所補充を急ぎ進め、稼働を上げることができた。

○従来型に比べ利用料が高いこともあり入所申込者が従来型よりも少ない傾向にある。施設入所対象となる候補者は他施設と取り合いのような状況がある。

(2) 報告事項・課題点等

○感染症対策

- ・年度当初は前年度末からの新型コロナ感染施設内複数発生の影響が少し残っていた。その後も大規模な施設内感染はなかったが利用者や職員が複数名陽性となることがあった。

○事故等

- ・医療機関受診を要した事故 5件
- ・その他軽微な事故・ヒヤリハットは多数あり

○その他

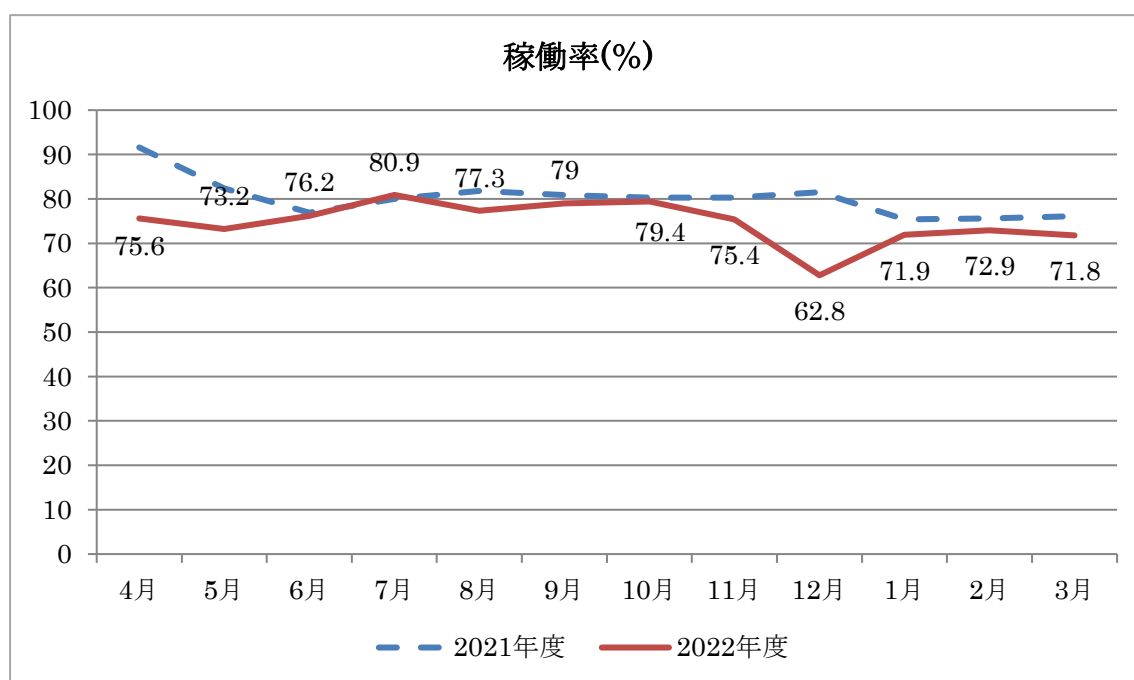
- ・職員間の情報共有がうまくできていないことが多々見受けられた。改善に向けて体制等の見直しを進めている。
- ・ケアマネージャーが年度後半に交代しているが、兼務している介護職員としての夜勤が多く日中不在の事が多い。ケアマネージャー業務に支障が出る為、他に夜勤業務ができる職員の補充が必要である。
- ・入浴業務についてこれまでケアマネージャーと介護職員で実施していることがあったが、業務見直しにより介護職員のみで実施できるようにした。
- ・新型コロナの影響や職員不足により行事等の取り組みがほとんどできなかった。次年度以降もっと実施していくことが課題である。
- ・利用者の重度化が進んできており、褥瘡のハイリスク者が増加傾向にある。

4. 八千代城デイサービスセンター

定員 18名/日

(1) 稼働状況

年間営業日数	303日
延べ利用者数	4,094人
100%稼働時延べ利用者数	5,454人
1日あたり平均利用者数	13.5人
年間稼働率	74.75%
平均要介護度(2023年3月)	要介護1.7
登録利用者数 (2023年3月現在)	29名



- ・年間平均稼働率 74.75% 前年度比 -5.53% (前年度 80.28%)
- ・平均介護度 1.7
- ・新規利用者数 12名 利用廃止者数 9名 (前年度新規 11名 廃止 9名)

○年度前半は前年度並みの80%前後の稼働であったが、後半そこから伸ばす事ができず、稼働が下がってしまった。

○新規受け入れは12件あったが、短期で利用が終了となるケースもあり稼働の向上につながらなかった。

○12月に利用者・職員複数名に新型コロナ感染者が発生。営業休止期間が発生するなどして大きく稼働が下がった。感染終息後もしばらく利用を控える利用者もあり、影響は大きかった。

○相談員が定着し、実績配布時等定期的に担当ケアマネージャーとつながりを持つように努めたことも新規ケースの獲得につながっていると思われる。今後は新規事業所との関係構築が課題。

(2) 報告事項・課題点等

○広報活動

- ・ Facebook 更新頻度が多くないこともあり閲覧数は横ばいである。
- ・ 広報誌の発行は今年度もできなかった。次年度検討とする。

○事故

- ・ 医療機関を受診した事故 1件
- ・ ヒヤリハット・医療機関受診を要しなかった事故等 2件

○苦情等

- ・ 苦情 0件

○行事等

- ・ 新型コロナウイルスの影響により外出行事は実施せず、施設内行事のみとした。栄養課の協力を得て、企画食を多く実施。
- ・ 次年度は感染症の状況をみながら外出行事を検討していく。

○新型コロナウイルス感染予防対策

- ・ 備品の消毒等感染予防対策を実施。
- ・ 次年度以降も基本的な感染対策は実施していく。

○地域交流・ボランティア等受け入れ

- ・ 新型コロナウイルスの影響により今年度も外部ボランティアの受け入れ、地域行事への参加などは実施しなかった。
- ・ 次年度は感染症の状況をみながら検討していく。

○運営推進会議

- ・ 書面による活動報告等のみ実施

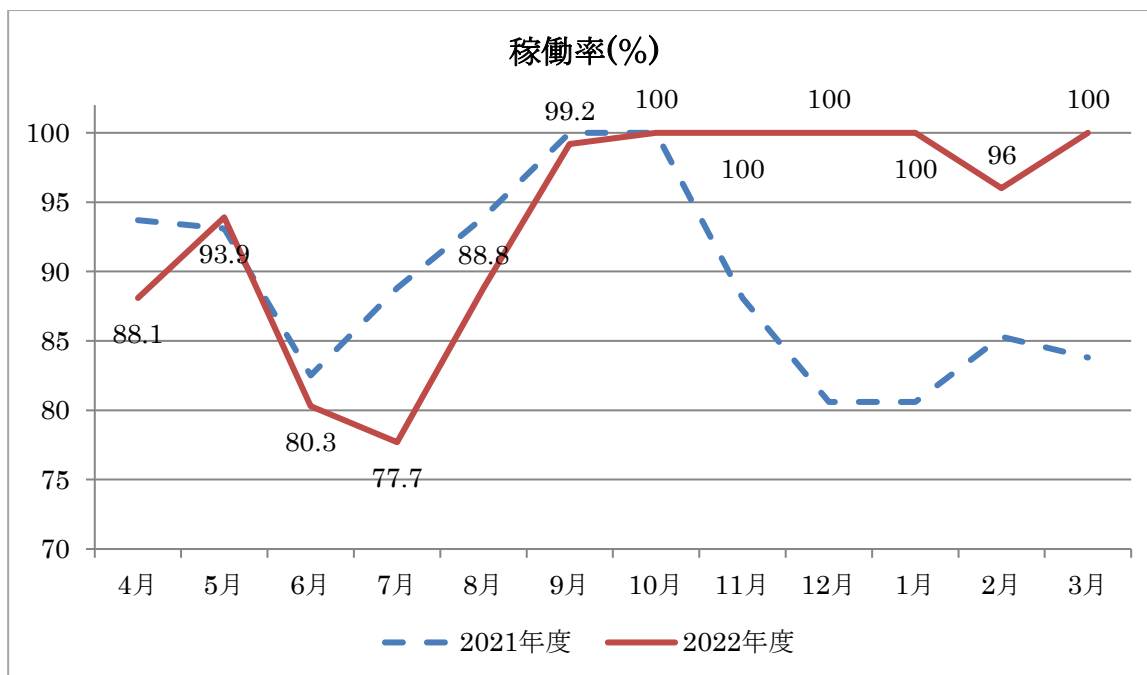
○実習生受入

- ・ 介護等体験実習生 14名受入
- ・ 社会福祉士養成実習 2名受入
- ・ ワクチン接種確認・健康チェック等感染予防を実施しての受け入れを行う。

5. グループホーム悠々やちよ 定員 9 名

(1) 稼働状況

年月	2022 年(令和 4 年)									2023 年(令和 5 年)		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ利用者数	238	262	217	217	248	268	279	270	279	279	242	279
100 % 時	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	252	279



年間平均稼働率 93.69% 前年度比 +4.46% (前年度 89.23%)

- ・入居 6 名 退居 6 名 (前年度 入居 5 名 退居 5 名)
- ・平均要介護度 2.61 (前年度 3.09)

○骨折による長期入院やターミナル期入居者退居後のリハビリに時間を要してしまっただけで、年度前半の稼働が安定しなかった。年度後半はほぼ満床を維持することができた。

○10名の申込みに対して6名入居している。相談・問い合わせは17件あったが、相談等の時点で空室がなく申込に至らないケースが発生した。ニーズは継続してあると思われる。

○退居理由としては、グループホーム対象利用者像よりも重度化された方が特養へ入所・当ホームでの永眠などがあつた。

(2) 報告事項・課題点等

○入居者状況

- ・11月から12月に入居者2名・職員2名が新型コロナ陽性になる。入居者はホーム内で療養。重症化やそこからの拡大には至らなかった。
- ・一緒に活動することで認知症症状を軽減し、心身状態を穏やかに保つというグループホーム本来の活動よりも重度になってしまわれた方の特養等への移行を進めた。

○活動・レクリエーション等

- ・新型コロナウイルスの為、外部のボランティア等との交流によるレクリエーションなどは著しく制限せざるを得ない状況だったが、ホーム内で可能な活動に取り組むよう努め、季節感を持てたり、楽しみを感じられるような活動の機会を設けることができた。

○職員状況

- ・かろうじて必要出勤者数を確保できている状況であり、時間外勤務の常態化には至っていない。
- ・試験的に早番勤務の稼働を行なったが、継続には至らなかった。
- ・計画的な有休取得は難しい状況。

○事故等

転倒・誤薬等 4件

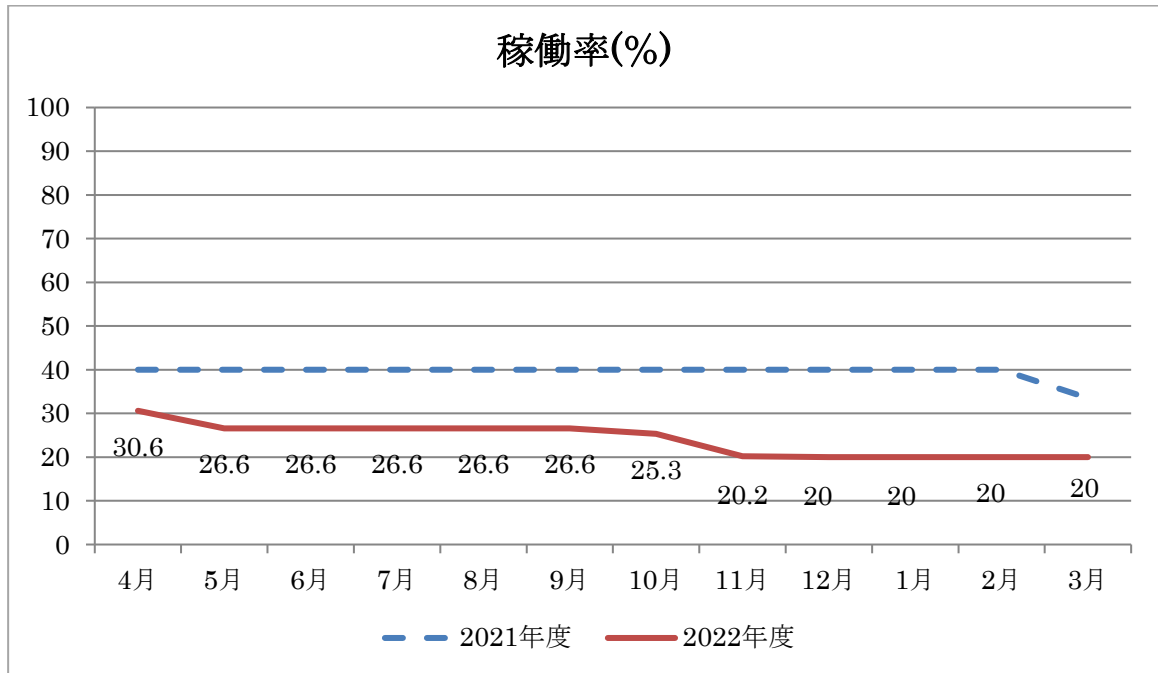
○その他報告事項

- ・運営推進会議については新型コロナウイルス蔓延防止の為、書面による実施のみ。
- ・職員研修については計画に基づきオンラインにて実施。
- ・外部評価 令和5年2月24日実施
- ・実習生受入 社会福祉士養成 1名

6. ケアハウス青空

定員 15 名

(1) 稼働状況



年間平均稼働率 24.12% 前年度比 -15.34% (前年度 39.46%)

入所 0名 退所 1名 (前年度 入所 0名 退所 1名)

2023年3月末現在 入居者数 3名

- ・ 空室解消に向けて外部の施設紹介会社に当施設の紹介を依頼。
その他無料又は低料金の情報掲載媒体(ネット)などを利用。
年度末から入居に関する問い合わせが増えてきている。

(2) 報告事項・課題点等

○職員状況

- ・ 2023年3月相談員退職にて、担当相談員交代(法人内異動)
次年度に向けて新規入居者受入体制等の見直しを実施
- ・ その他介護職員等の配置に変更はなし。

○行事・レクリエーション等

- ・ 外出行事は新型コロナウイルスの影響により実施せず。
- ・ 職員付添による買物については、新型コロナの流行状況や周辺ケアハウスの活動状況を確認しながら、回数を減らし実施
- ・ 散歩やデイサービス利用は通常どおり実施

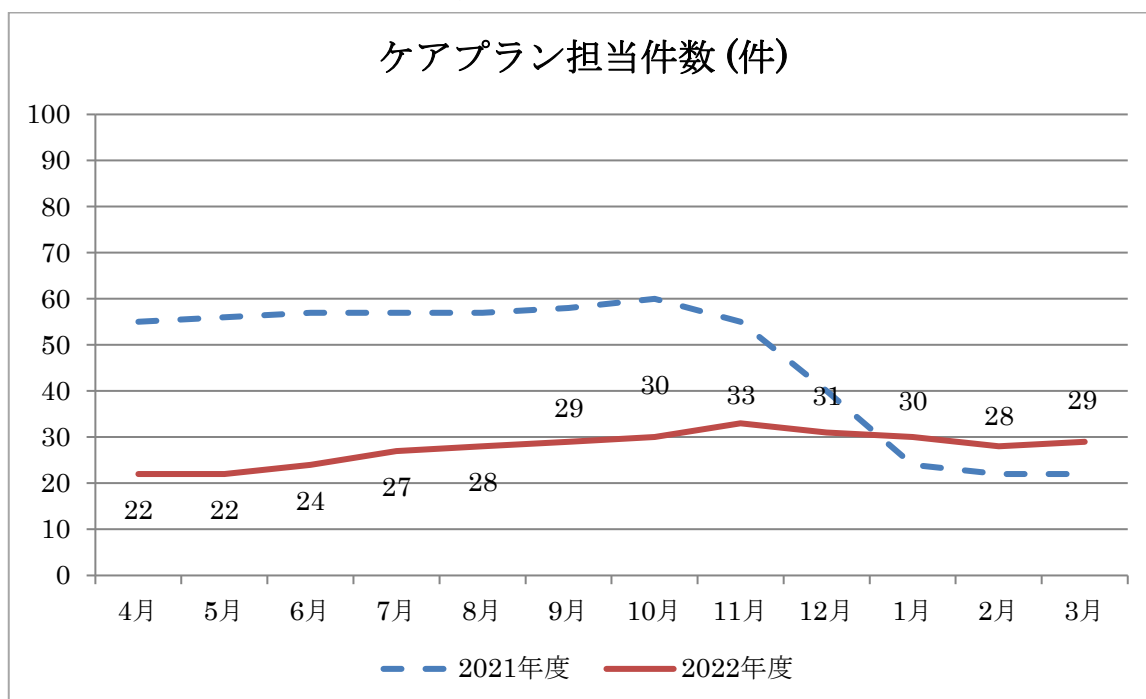
○実施サービス等

- ・ 職員による通院送迎・付添実施
- ・ 職員・外部ヘルパーによる軽介護(居室内清掃・入浴時見守り等)

- ・ 外部ホームヘルパー利用者数 1名(年間実人数)
- ・ デイサービス利用者数(当法人・外部) 2名(年間実人数)

7. 八千代市在宅介護支援センター八千代城

(1) 稼働状況 (※国保連請求件数より)



- ・ 2022年2月～ ケアマネージャー1名体制
- ・ 1名体制の中で管理者要件を満たす研修の受講等があった為、担当件数をあまり増やすことができなかった。
- ・ 地域包括支援センターを通じたケース紹介が多かった
- ・ 認定調査の受入れを積極的に行うようにした

(2) 報告事項・課題点等

○研修修了により管理者要件を満たすことができた。

○1名体制の為、偏った考え方などにならないように地域包括支援センター等に相談しながら業務に当たるように努めた。

○前任者の退職に当たり引き継ぎが不十分であったケースなどにおいて手続きや報告に不備が生じたことがあった。

8. 八千代台地域包括支援センター

(1) 総合相談支援業務

○新規相談…774件

主な相談 介護に関すること 275件、介護保険制度に関すること 254件
認知症に関する相談 96件

主な相談者 家族 377件 本人 151件 医療関係者 77件

○研修受講等をし、職員の知識向上・専門性向上に努めました。

(2) 権利擁護事業

○高齢者虐待通報件数…16件（前年度は17件）

・対応延べ件数の半数以上は昨年度からの継続ケースであり、虐待問題の解決には長期的な支援が必要なケースが多い。

○成年後見制度・消費者被害に関わる新規相談 10件

・昨年度以前からの継続対応件数は 153件
・成年後見申し立ての支援を行い制度利用につながったケースや日常自立支援事業の利用開始につながったケースもあった。
・行政・警察・地域関係者と連携し消費者被害の防止に関する啓もう活動を行なった。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

○前年度圏域ケアマネージャーに対し研修要望のアンケートを実施

→医療連携と災害対応に関する要望が多かった

・今年度も引き続き医療連携と災害対応に関する交流会・事例検討会を民生委員とケアマネージャー対象に実施
・薬剤師会との合同研修等も実施

(4) 認知症地域支援・ケア向上業務

○前年度の認知症カフェ開催のニーズを受けて、支会・自治会・民生委員・介護サービス事業者等の協力を得て1月に認知症カフェを開催した。

○認知症サポーター養成講座 開催数：1回

○認知症初期集中支援チーム・地域包括支援センター連携強化会議出席

○その他認知症関連研修への参加 3回

(5) 生活支援コーディネーター業務

○地域団体の会議や支会会議に参加し、地域の社会資源等の情報収集に努めた。

○職員の地域支援に関する知識・技能向上の為に生活支援コーディネーター研修等に参加

(6) 地域ケア会議推進業務

○圏域ケアマネージャー等からの相談を受け、個別地域ケア会議を開催。関係者間において情報共有を行なった。また適宜ケース会議を実施した。

(7) 介護予防ケアマネジメント事業

○介護予防教室（介護予防普及啓発事業） 15回開催

（感染症対策を講じることで予定していた回数を実施）

○地域の介護予防に関する情報収集として介護予防サロン等への訪問を実施

(8) 令和4年度事業総括

次年度の委託事業者を選定されず平成18年度から続いていた当センターの事業が終了となった。事業終了の主な要因は令和3年度からの断続的な人員不足であるが、地域関係者等からは委託事業終了を惜しむ声を多くいただいた。次年度以降は当センター運営で培ってきた地域との関係性、社会福祉に関する知識技術を法人の活動に活用していきます。